

報道関係者 各位

令和 8 年 2 月 19 日

～イノベ構想をもっと身近に、未来を現実～  
**福島イノベーション・コースト構想 メディア発表会**  
**@高輪ゲートウェイシティ 開催**

震災から 15 年、水素・ドローンをテーマにイノベ構想を牽引する先進的な事例を紹介

(公財)福島イノベーション・コースト構想推進機構(以下、「イノベ機構」)は、本年 3 月 6 日(金)に、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(以下、「NEDO」)との共催により、東京の新たな玄関口として注目される「高輪ゲートウェイシティ」において、「福島イノベーション・コースト構想」(以下、「イノベ構想」)の成果を全国に発信するためのメディア発表会を開催します。

本年 3 月 11 日に東日本大震災から 15 年を迎えます。東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所の事故という未曾有の複合災害によって、福島県浜通り地域等は大きな被害を受けて地域の産業や雇用が失われました。2014 年にイノベ構想が取りまとめられ、国、福島県、市町村及びイノベ機構などの関係機関が一体となって、新たな産業基盤の構築に向けて取り組んできました。企業進出やそれに伴う雇用創出など一定の成果が得られていますが、地元企業との裾野の広いサプライチェーンの構築など自立的、持続的な産業発展の実現に向けては、なお途上です。そのような状況下で、昨年 6 月に改正された「福島イノベーション・コースト構想を基軸とした産業発展の青写真」では、今後 5 年間の第 3 期復興・創生期間において、イノベ構想をもっと身近に、未来を現実にするべく、福島の復興をさらに加速していくこととしています。イノベ機構は、イノベ構想の中核機関として、その実現に向けた取組を強化していく方針です。

本発表会では、NEDO との連携により進められている、福島水素エネルギー研究フィールド(FH2R)を始めとする水素社会の実現に向けた取組や、福島ロボットテストフィールドを中心として発展するドローンなどの次世代モビリティの事業化の取組をテーマとして、イノベ構想を牽引し福島発の事業展開を進めるスタートアップ企業・進出企業の 3 社に加え、イノベ構想を支えるイノベ機構、NEDO、さらには創造的復興の中核拠点である福島国際研究教育機構(以下、「F-REI」)の関係部門から最新の成果を発表するとともに、パネル展示も実施します。

また、「実証の聖地から実装の先駆地へ イノベ構想の今と未来」をテーマに、イノベ構想が描く未来の実現についての理解を深めるトークセッションも実施します。

各報道機関の皆様には、事例発表3社、関係機関の事業成果や発表会当日の様子等をご取材いただき、福島で進むチャレンジと各企業の優れた魅力を広く周知くださるようお願いいたします。

■「福島イノベーション・コースト構想 メディア発表会」開催概要

- 1 開催日時 令和 8 年 3 月 6 日(金) 13:00～15:30(受付開始:12:30～)
- 2 開催場所 高輪ゲートウェイシティ 6Fカンファレンスホール C  
 (東京都港区高輪 2-21-2 THE LINKPILLAR 1 SOUTH 6F)  
 ※JR 山手線、JR 京浜東北・根岸線 高輪ゲートウェイ駅直結

### 3 登壇企業（事業内容は4ページを参照ください）

#### ●OKUMA TECH 株式会社(J-Startup TOHOKU 第4次選定企業)

代表取締役 李顕一 氏

— 水素燃料電池開発からサプライチェーン構築まで「小さな水素社会」を実現する —

#### ●株式会社ハマ(J-Startup TOHOKU 第4次選定企業)

代表取締役 金田政太 氏

— 先端技術で私たちの未来をまもり、可能性に満ちた社会の実現に貢献する —

#### ●會澤高圧コンクリート株式会社(第9回「ものづくり日本大賞」優秀賞受賞)

執行役員 大橋未来 氏

— コンクリート×テクノロジーで『未来』をつくる！福島 RDM<sup>2</sup>センターの取り組み —

### 4 内容

#### ●福島イノベ構想のご紹介

#### ●登壇企業 3社から取り組み・開発の成果を発表

#### ●NEDO 2事業部門(水素・アンモニア部、航空・宇宙部)から取り組み・開発の成果を発表

#### ●F-REI(エネルギー分野)の取組紹介

#### ●個別取材

登壇企業各社、NEDO、F-REI のブースを設け、製品やサービスをご紹介します。

#### ●トークセッションの実施

テーマ：「実証の聖地から実装の先駆地へ イノベ構想の今と未来」

モデレーター：イノベ機構 産業集積部長 小林正典

セッションスピーカー：登壇企業 3社

#### ●フォトセッション・個別取材

### 5 取材について

下記 URL または二次元バーコードから申込フォームにお進みいただき、必要事項を入力して送信してください。

<https://e-ve.event-form.jp/event/124473/mediaconference2026>



#### 【問い合わせ】

公益財団法人福島イノベーション・コースト構想推進機構

所在地：福島県福島市中町 1-19 中町ビル 6 階

#### [発表会についての問い合わせ]

福島オフィス交流促進部 部長 吉成 孝志（よしなり たかし）

メール：t.yoshinari@fipo.or.jp 電話：024-581-6892(直通)

#### [登壇企業についての問い合わせ]

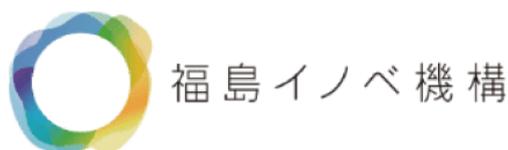
福島オフィス産業集積部 部長 小林 正典（こばやし まさのり）

メール：m.kobayashi@fipo.or.jp 電話：024-581-6889(直通)

### ■公益財団法人福島イノベーション・コースト構想推進機構

福島県浜通り地域等に新たな産業の創出を目指すため 2014 年 6 月に取りまとめられ、国家プロジェクトとして位置づけられる「福島イノベーション・コースト構想」のもと、福島ロボットテストフィールド、東日本大震災・原子力災害伝承館等の拠点運営や、産業集積の実現、教育・人材育成、交流人口の拡大等に向けた取組を進めています。

<https://www.fipo.or.jp/>



### ■国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)

エネルギー・地球環境問題の解決と日本の産業技術力の強化を目的に、委託事業や補助金を通じて技術開発を支援する政府機関です。

NEDO の目的は、民間企業の能力を活用して技術開発の成果を事業化・社会実装まで導くことです。そのために、NEDO は内外の情勢を観察して社会が求める技術を見出し、事業化につながるビジネスモデルの構築や経営戦略の策定まで幅広くサポートしています。また、技術開発の現場と日頃から交流することで産学官の連携も促します。

<https://www.nedo.go.jp/>



### ■福島国際研究教育機構(F-REI)

福島復興再生特別措置法に基づき、2023 年 4 月 1 日に設立された特殊法人です。

福島をはじめ東北の復興を実現するため、国内の科学技術力・産業競争力の強化を牽引し、経済成長や国民生活の向上に貢献する、世界に冠たる「創造的復興の中核拠点」を目指し、福島ならではの優位性を発揮できる 5 つの研究分野(「ロボット」「農林水産業」「エネルギー」「放射線科学・創薬医療、放射線の産業利用」「原子力災害に関するデータや知見の集積・発信」)において、世界トップ水準の研究開発を実施しています。

<https://www.f-rei.go.jp/>



## ■OKUMA TECH 株式会社

2021年に福島県大熊町に設立し、水素ドローンや運行管理システムの開発をしています。ドローンに限らず水素利用の様々な研究開発の展開に向け、2025年に株式会社 OKUMA TECH に社名を変更しました。2026年2月、J-Starup TOHOKU 企業として選定(第4次)されました。

水素ドローンへの搭載を目的として研究開発を開始した水素燃料電池を応用し、可搬式の水素発電装置を開発し受注生産を開始しました。今後、2027年4月の稼働を目指し大熊町に自社工場を建設し、水素燃料電池の製造や、粉体水素を用いた新たなドローンの開発など行う予定です。大熊町を拠点とした「地産地消型の小さな水素社会」の実現に取り組んでまいります。



## ■株式会社ハマ

2014年に東京都大田区に設立後、2022年に本社を南相馬市に移転。2025年に株式会社ハマへ社名を変更しました。無人航空機をはじめとし、様々な無人機の開発・製造、ソリューション提供を行っています。2026年2月、J-Starup TOHOKU 企業として選定(第4次)されました。

水上からの自動離発着、海面航行を特徴とする飛行艇型無人航空機「ハマドリ」の開発をはじめ、150kg 級までの VTOL 固定翼機開発など、さまざまな無人航空機の開発実績を有します。その特徴から主に海洋に関連する産業分野や、防災・防衛分野での活用への期待をいただいております。2024年1月の能登半島地震においても「ハマドリ」による海岸調査・撮影に従事しました。



## ■會澤高圧コンクリート株式会社

1935年に北海道で創業。2023年6月、福島県浪江町に「福島 RDM センター」を開業(2026年1月から「福島 RDM<sup>2</sup>センター」に改称)しました。2023年1月に第9回「ものづくり日本大賞」優秀賞、2024年12月に第10回「ふくしま産業賞」福島民報社奨励賞、2025年12月に第11回「ふくしま産業賞」金賞をそれぞれ受賞しております。

福島 RDM<sup>2</sup>センターを先端技術の実証・実装フィールドとして位置づけ、産学官連携によるオープンイノベーションを通じて、バクテリアの代謝機能を活用してひび割れを自ら埋める「自己治癒コンクリート」や、コンクリートが電気を通し電気を蓄える「蓄電コンクリート」などの新技術を創出・実装し、新たな企業価値の創出と地域産業の創出、社会課題解決の両立を目指します。



■福島イノベーション・コースト構想関連拠点等マップ

